

福岡市の森林と森づくり

Fukuoka Green NEXT

福岡市は住宅やビルが広がる印象がありますが、実は、**市の面積の約1/3が森林**で、森林と都市とがコンパクトに調和し、**森の存在と価値を身近に感じる**ことができます。



快適で豊かな市民生活を支える**森林を次世代に残していく**ため、**Fukuoka Green NEXT「みんなで守り・楽しみ・活かす都市・ふくおかの森づくり」**を進めています。

- 福岡市の森づくりの将来像の実現に向けた5つの基本方針 -

毎日の暮らしを快適にし
災害を減らす
「安心の森づくり」

身近な自然を
体験し学ぶ
「遊びの森づくり」

脊振山系から博多湾まで
流域全体で行う
「水循環の森づくり」

気候変動対策と生物
多様性保全に応える
「環境の森づくり」

持続的な森の利用と
生産を目指す
「なりわいの森づくり」

森林のさまざまな機能

森林は、**地球温暖化の防止**や**生物多様性の保全**など、**持続可能な社会の実現** (SDGs) にもつながるさまざまな機能があります。その機能を保ちながら、森林を次の世代へ引きついでいくためには、**間伐**や**植え替え**により森林を**バランスのとれた状態**にしていく必要があります。



間伐は何のためにするの？



森林を健康な状態に保つためです！

間伐とは、木が成長し、隣同士が重なり合ってきたとき、**一部の木を伐(き)って葉を広げるスペース**をつくることです。

間伐を行うと、**日光が地表に届き、下草が発達**し、森林の**水源かん養機能**などが増進されます。さらに、残った**木の成長が促進**され、**木材としての価値が向上**します。



森林の種類

森林は、**人工林**と**天然林**に大別することができます。

人工林

木材として使うため、スギやヒノキなどの苗木を植え、育ててきた森林。



天然林

自然に落ちた種から芽が出て育った森林。いろいろな種類の木が生えている。



福岡市農林水産局ホームページに福岡市の森づくりや木材利用に関する情報を掲載しています！

福岡市ホーム > くらし・手続き > 農林水産・食 > 農林水産局ホームページ > 福岡市の農林水産業 > 森林・林業に関すること



福岡市の木材利用の取組み

木をどんどん使おう！



公共施設に福岡市内産材を積極的に利用しています！

福岡市内の森林の約半数はスギ・ヒノキの人工林で、うち約80%が木材としての利用時期を迎えています。

市では、地域産材を利用した公共施設の木造・木質化に取り組んでいます。



木材には、リラックス効果や調湿効果などもあるんです！

【参考】福岡市の民有林人工林の樹齢別面積(令和2年度)

植替が進まず 若い木が少ない	● 20年以下：139ha(3%)
	● 21~40年生：847ha(16%)
約80%が 木材利用期	● 41~60年生：2,429ha(45%)
	● 61年生以上：1,926ha(36%)



伐って、使って、植える

木材を使うことは、「伐って、使って、植えて、育てる」という人工林のサイクルの一部です。

森林のもつさまざまな機能を発揮しながら、森林の持続的なサイクルを保つためには、人工林を伐って使うとともに、植え替えを行い森を育てることが大切です。



福岡市では、伐採後に広葉樹等への植え替えを進めることで、花粉発生源対策にも取り組んでいます。

木を伐ることは環境に悪いんじゃないの？

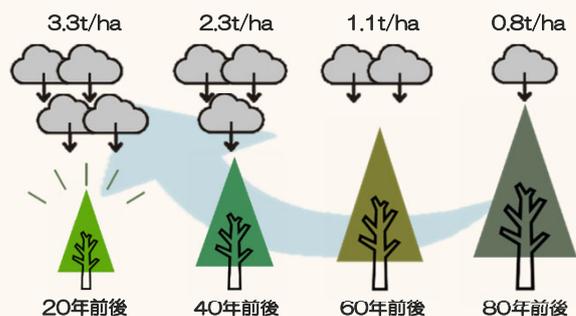


伐採・植え替えにより、森林を若返らせることが大切です！

木は成長過程でCO₂を吸収し、炭素として内部に貯蔵します。その炭素は、木材として建築物などに利用されてからも内部に貯蔵され続けるため、地球温暖化の防止につながります。

また、老木より若い木の方がCO₂をたくさん吸収するため、伐採・植え替えにより、森林を若返らせることで、CO₂吸収をより高めることができます。

【参考】植林年数によるCO₂吸収量の比較



若い木の方がCO₂を約4倍吸収！

